

<参考資料>

1. 各公園ごとの現状等

「IV 1. 各公園ごとの取組み」を定めるため、各公園ごとの現状及び強み、弱み、機会、脅威について、次のとおりとりまとめた。

<花フェスタ記念公園>

【沿革】

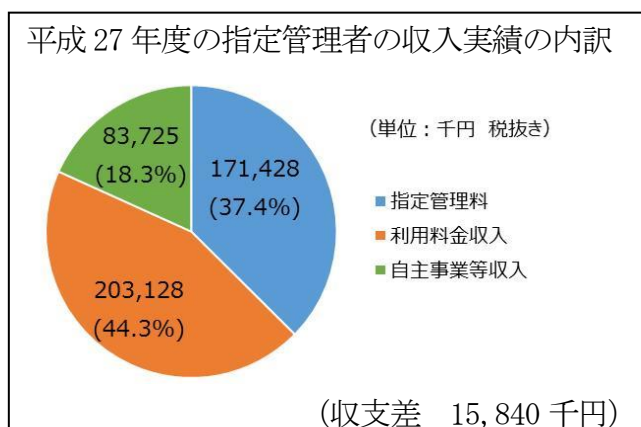
- 平成元年4月29日に「可児公園」として開園。
- 平成7年「花フェスタ'95」の会場となり、その成功を受けて再整備を行い、平成8年4月26日より「花フェスタ記念公園」として開園。
- 平成14年に英国王立バラ協会友好庭園を開設。
- 平成15年に「世界バラ会連合」から「優秀ガーデン賞」を受賞。
- 平成17年に「花フェスタ2005ぎふ」(3月1日～6月12日、104日間)を開催し、合計1,426,708人の来園者を迎えた。
- 平成27年に「花フェスタぎふ2015」(5月16日～6月21日、37日間)を開催し、合計416,226人の来園者を迎えた。
- 平成27年11月に「清流の国ぎふ花き振興計画」において、花き振興の拠点として位置づけられた。

【施設特性】

- 面積 80.7ha
- 開園時間 4月～11月上旬 9:00～17:00
11月中旬～3月末 9:30～16:00
- 駐車台数 1,700台
西側1,000台(大型27台) 東側700台(大型16台)

【指定管理者の現状】

- 平成28年度～平成34年度の7年間、指定管理者は「花フェスタ記念公園運営管理グループ」(構成員:イビデングリーンテック(株)、(株)日本ライン花木センター、グリーンワークス(株))。



【地域連携】

「花フェスタ 2015 ぎふ」では各市町村の出展等、地域のPRの場として活用。

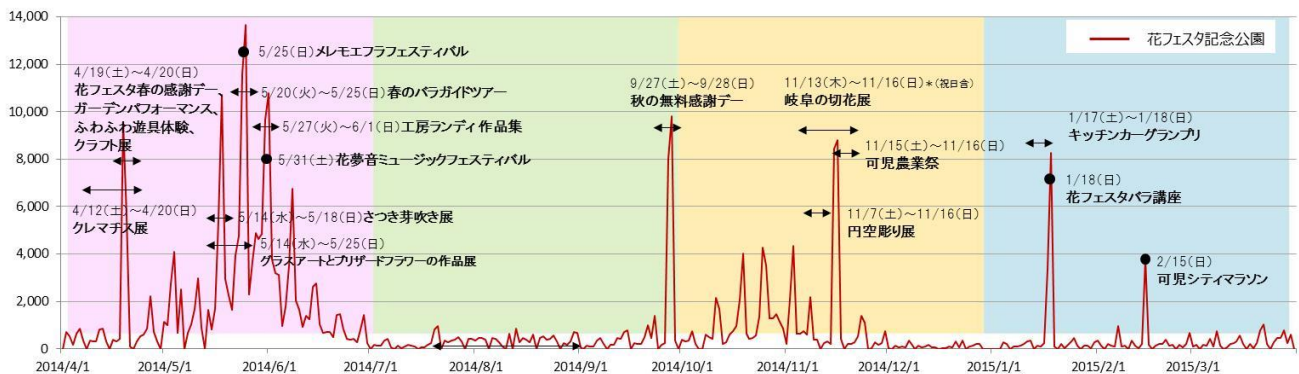
「花フェスタ無料感謝 DAY」を可児市、可児商工会議所、可児市観光協会、JA等団体の協力のもと開催。

【入園者数等の動向】

- 入園者数は、春のバラ鑑賞期の4月～6月に最も多く、次いで秋のバラ鑑賞期9月～11月となる一方で、夏期・冬期が少ない状況である。

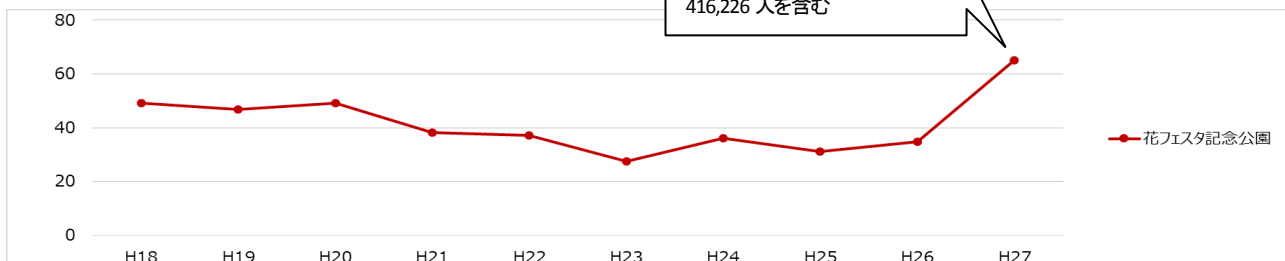
【日別入園者数推移】(平成26年度)

入園者数(人)



【年間入園者数の推移】(平成18～27年度)

入園者数(万人)



【公園の主なイベント・プログラム】(平成27年度)

- 春のバラまつり、秋のバラまつり、春の市民茶会、春のバラガイドツアー、写生コンテスト、阿波踊り、キャラクターショー、コスモスまつり、紅葉まつり、可児農業祭、桜ヶ丘幼稚園まつり、各種コンサート、花フェスタダンスフェスティバル、服部早苗植物画展、さつき芽吹き展、キッズサマーイベント、バラ雑貨作品展、トールペイント作品展、秋の盆栽展、天使の運動会、花フェスタ花火コンサート、園芸アカデミー作品展、もみじまつり、可児シティマラソン、学校・団体の発表会 等
- 花フェスタバラ講座、プリザーブドフラワー教室、ピザ焼き体験、絵本の時間、バラの育て方相談室、ガラスアート体験教室、手打ちそば 等

【アンケート結果】(平成26年度 春・秋のバラまつり平均)

【居住地】 岐阜県が43.1%、愛知県が46.2%

【年代】 50代以上が約70%を占める。

【性別】 女性が約70%を占める。

【利用形態】 夫婦(45.2%)、家族(27.0%)、知人友人(15.4%)、一人(5.8%)、
カップル(3.4%)

【来園頻度】 年に1回~数回(48.2%)、初めて(19.5%)、数年に1回(15.2%)、
月に1回~数回(10.3%)、週に1回以上(7.0%)

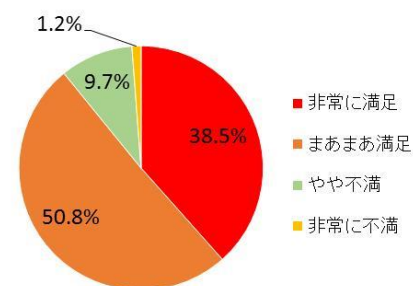
【来園動機】 花がきれい(44.4%)、イベントがある(15.0%)、景色がきれい(16.0%)、
広々している(8.1%)、友人に誘われて(4.3%)

【滞在時間】 1時間未満(3.6%)、1~2時間(33.0%)、
2~3時間(33.9%)、3~4時間(17.5%)、
4時間以上(12.2%)

【満足度】 非常に満足(38.5%)、
まあまあ満足(50.8%)、やや不満(9.7%)、
非常に不満(1.2%)

【飲食物販施設の味・値段・接客等】

非常に良い(5.7%)、良い(28.1%)、ふつう(63.0%)、
悪い(3.1%)、非常に悪い(0.2%)



満足度グラフ

<花フェスタ記念公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・世界に誇るバラ園（品種数、株数）を有する。 ・国際的な評価（世界バラ会連合から「優秀ガーデン賞」を授与）を得ている。 ・「英国バラ協会友好庭園」や、「モロッコ・ロイヤルローズガーデン」、「アンネのバラ園」、環太平洋ばら友好協定等、国際交流の取組みが他公園と比較して多い。 ・高速道路 I C に近く、自家用車によるアクセスが良い。 ・園内には「茶室」を有し、海外からの来客にも好評である。 ・地元可児市において、公園が「誇り」となっており、「市の花」にバラも指定されているように、市のブランドに貢献している。 ・他県からの来園者は約 57% を占めており、広域的な誘致圏を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラの主な開花時期（春、秋）に依存した集客構造となっており、夏、冬の少ない集客数との差が他公園と比較して大きい。 ・バラの見せ方や情報発信がマンネリ化している。 ・多くの品種数のバラを有する一方で、植物園のような構成となっており、記念撮影に適したバラのボリューム感を味わえるエリアが少ない。 ・バラ以外の花の見どころが乏しい。 ・高い国際的な評価を受け一方、その価値がインバウンドに連動していない。 ・主要施設が分散しており、施設間の連携性に乏しい。 ・「花のタワー」の展望台は、眺望性を活かしきれていない。 ・屋内イベント会場となる「プリンセスホール雅」の設備が多目的利用に対応できていない。 ・東ゲート付近の賑わいが乏しい。 ・自家用車で来園が 90% を超えており、公共交通によるアクセスが弱い。 ・飲食の満足度において、普通以下が約 66% を占める。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・「清流の国ぎふ花き振興計画」における花き振興の拠点としての位置づけ。 ・近隣の施設である「杉原千畝記念館」に関する「杉原リスト」が、世界の記憶として申請中。 ・アメリカ・ポートランドにおいて、「バラ」がまちのブランドとなり、企業誘致に成功している事例の存在。 ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・バラ株の老齢化。 ・高度なバラ管理技術を担う人材の継続的な確保。 ・類似施設との競合。